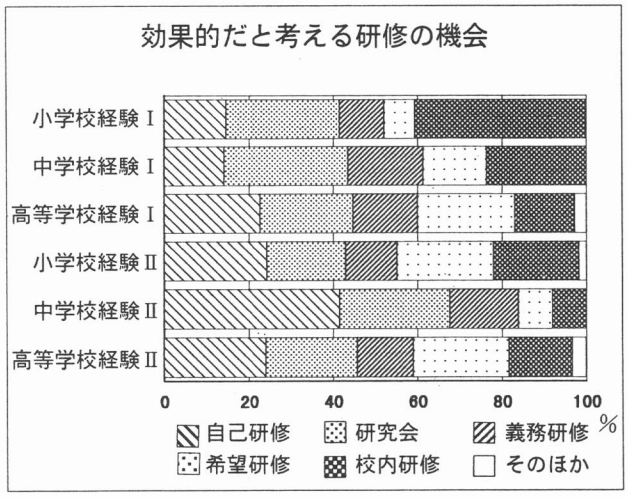
【調査２】
「教員研修に関する意識調査」について

【調査結果及び考察】

1　効果的だと考える研修の機会

効果的だと考える研修は，
経験者研修Ⅰ－「校内研修・研究会」
経験者研修Ⅱ－「自己研修・希望研修」

＜グラフ１＞



効果的だと考える研修の機会について，「経験者研修Ⅰ対象教員」と「経験者研修Ⅱ対象教員」では，異なった結果がでた。

経験年数別でみると，「小・中学校経験者Ⅰ」では，『校内研修・研究会』が効果的であると答えたのに対して，「小・中学校経験者Ⅱ」では，『自己研修』の割合が増加している。高等学校は，経験者Ⅰ・Ⅱとも『自己研修・希望研修』が効果的であるという結果である。

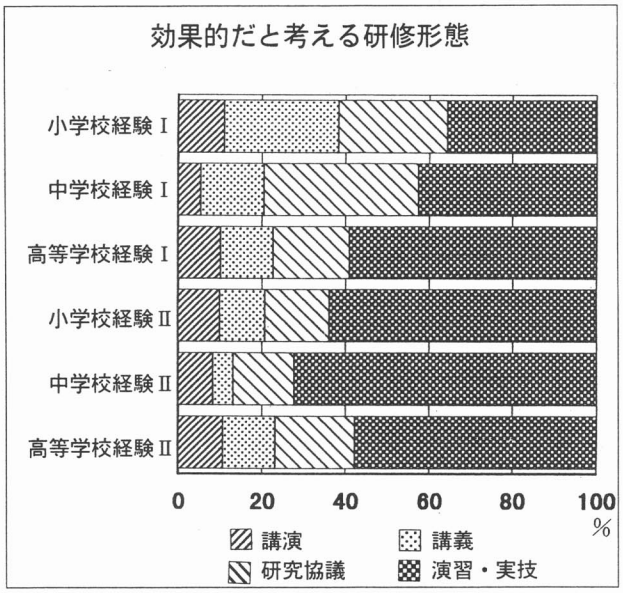
この結果から，経験の浅い教員（経験者Ⅰ）に比べ，ある程度の経験（経験者Ⅱ）を積んだ教員は，教員としての力量も向上し，自分の専門とするものが固まってきているため，『自己研修』や『希望研修』でさらに深めたいと考えていることが推測される。

校種別にみると，小学校では，『校内研修』が最も効果的な研修の機会だと考えているのに対して，中学校では，『自己研修・研究会』が効果的であると答えている。高校においては，『自己研修・研究会・希望研修』が同じ割合で効果的であると答えている。

2　効果的だと考える研修形態

小・中・高校とも，「演習・実技研修」が効果的な研修形態

＜グラフ２＞



効果的な研修形態は，経験Ⅰ・Ⅱを通して，「演習・実技研修」であると答えている。中でも，経験Ⅱに至っては，どの校種も６割を超える数値を示している。

経験年数の少ない小・中学校経験Ⅰの教員の３割は，「講義・研究協議」も効果的であると捉えている。